【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和８年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	上峰町立上峰小学校

1　前年度評価結果の概要

①校内研究の新たな視点を全職員で共通理解・共通実践し、授業改善に取り組んだことで、教師力の向上につながり、子供たちの学力定着に向けた指導の質が高まった。今後は、取組の効果検証を行いながら、より効果的な取組になるよう研究の内容や方法を工夫していく。
②アンケートや児童観察を活用したいじめの積極的認知と早期対応が組織的に進められた。また、不登校児童への支援も家庭や関係機関との連携の中で着実に行われている。今後は、早期対応の視点を一層強化し、継続的な支援体制の充実を図る。
③体育の授業の工夫や外遊びの推奨により、１日に６０分以上運動をしている児童が８０%を超えた。また「早寝早起き朝ごはん」を毎日実践している児童は９５%に達した。今後は運動習慣と基本的生活習慣の質の向上を図り、健康な体づくりを一層推進していく。

2　学校教育目標

心と知恵と技を研ぐ上峰っ子の育成
～ふるさとを愛し、夢に向かって輝くために～

3　本年度の重点目標

①　校内研究の視点に基づいた指導力向上の取組を継続・深化させ、児童一人一人の学びの状況に応じた指導の充実を図るとともに、全職員で一体感をもって学力の向上を目指す。
②　アンケートや日常観察を生かしたいじめの積極的認知と早期対応を一層推進するとともに、関係機関や家庭との連携を図りながら、チームとしての組織的な支援体制を充実させ、安心して過ごせる学校づくりを推進する。
③　運動習慣の定着と基本的生活習慣の質の向上を図るため、体育の授業改善や日常的な運動機会の充実に取り組むとともに、家庭との連携や職員間の連携を強化しながら健康教育を推進し、健康な体づくりを進める。

4　重点取組内容・成果指標　／　**中間評価**　／　**5　最終評価**

(1)共通評価項目

重点取組 評価項目	重点取組 取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価 進捗度（評価）	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度（評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・子供の主体性向上と教師力向上に取り組む。	○児童アンケートにおいて主体的に学ぶことに対して肯定的な回答をする割合85%以上。 ○子どもたちが「熱中」できる授業の充実・基礎学力の定着に取り組むことができた教師の割合85%以上。	・校内研究や校内研修で実践発表や情報交換等を行い、共有できる指導方法を増やす。 ・「授業づくりのステップ１．２．３」を参考にし、全職員で共通理解を図りながら実践できるようにする。	A	・児童へのアンケートで肯定的な回答の割合は87%であった。これまでの指導を継続し、校内研を活性化させ、さらに向上を図る。		・		・	知恵を研ぐ部（富﨑）
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケート「道徳の授業を年間計画を基に意図的に行って、道徳的なっ判断力、心情、実践意欲と態度の育成に取り組んでいる」に肯定的な回答をする教員の割合が80%以上。	・年間計画を基に道徳の授業を意図的に仕組む。 ・保護者参加型の道徳授業を通して家庭との連携を図る。 ・目指す子ども像「ためともの心」や「ありがとうの木」を通して豊かな心を育む。	A	・年間計画をもとに道徳の授業を行ってきた。保護者参観型も考えて、年間3回の授業参観のうち1回は各クラス道徳の授業を公開した。 ・月１回の生活集会では、「ためともの心」に触れ、「ありがとうの木」の紹介を全校放送で流し、共通理解を行った。		・		・	心を研ぐ部（吉冨）
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○アンケート「困ったことがあったとき、話を聞いてくれる先生がいる」に肯定的な回答をした児童の割合80%以上。	・SC、SSWとの連携を図り、学年を中心に組織的に指導を行う。 ・いじめへの対応のために、ハイパーQU研修やSC研修、事例研修会を行う。 ・いじめの早期発見、対応についての取り組み等を保護者に周知する。	A	・アンケート「「困ったことがあったとき、話を聞いてくれる先生がいる」に肯定的な回答をした児童の割合が93%だった。		・		・	心を研ぐ部（牧山・吉冨）
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・子供の行動を褒めたり、価値づけたりできるように、「褒め言葉一覧」を作成して職員に配布し、活用する。 ・キャリアパスポートの取り組みの中で、年度の初めに目標を立てる。 ・6年生は夢未来プロジェクトと称して、自分の将来の夢を探し、その夢に向けて自分が取り組むべき行動目標を立てさせる。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童94%、「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童84%だった。		・		・	技を研ぐ部（北村）
	○人権・同和教育、道徳教育の推進	○道徳の学習や人権集会を通して、アンケート「人を思いやることができるようになった」に肯定的な回答をした児童の割合80%以上。	・道徳の学習や年3回の人権集会、年1回の人権週間を通して、人権について考える機会をつくり、児童が相手の気持ちを考えて行動できるようにする。	A	・「人を思いやることができるようになった」に肯定的な回答をした児童の割合が91%だった。		・		・	心を研ぐ部（緒方・吉冨）
●健康・体つくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で350分以上の児童生徒80%以上。 ○アンケート「～大会・～記録会には、練習を頑張って取り組めたか」に肯定的な回答をした児童の割合90%以上。	・業間休みや昼休みにおける外遊びの奨励,体育委員会の活動による取り組みの促進を図る。 ・体育大会,水泳記録会,縄跳び記録会などの行事を通して,運動への興味,関心を高め,運動に親しませる。	A	・「１日50分以上、運動をしていますか。」に肯定的な回答をした児童が83%だった。 ・「○○大会、○○記録会に向けて、練習を頑張り、本番に臨むことができましたか。」に肯定的な回答をした児童が94%だった。		・		・	心を研ぐ部（松本）
	○望ましい生活習慣の形成	○アンケート「早寝早起き朝ごはんを毎日行う取り組み」に肯定的な回答をした児童の割合95%以上。	・睡眠、食事の大切さについて、学校栄養職員、養護教諭が担任と連携し、学級指導や個別指導を行う。 ・各種おたよりを通して基本的生活習慣の定着について家庭への啓発を行う。	A	・6月の早寝早起き朝ごはんチェックシートで肯定的な回答をした児童は97%だった。		・		・	心を研ぐ部（桝谷・古賀）
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限45時間を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・業務改善を進め、繁忙期を除き、18:30までに施錠をする。 ・長期休業中の研修の日程や形態を工夫し、年次休暇の取得を奨励する。	A	・時間外在校等時間の1か月あたりの平均時間は20．6時間だった。 ・9月までの、職員一人当たりの年次休暇の取得日数の平均は13．4日だった。		・		・	教頭
	○業務改善・働き方改革の推進	○アンケート「自分の時間を確保し、心身の休養に充てることができた」に、肯定的な回答をした教員の割合80%以	・教材の共有化や生徒指導事案への対応などにチームで取り組み、業務改善・働き方改革につなげる。	A	・1学期の振り返りアンケート「自分の時間を確保し、心身の休養にあてることができた。」に肯定的な回答をした職員は、98%だった。		・		・	教頭
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識・理解の向上	○アンケート「特別支援教育に関する知識や技能をより学ぶ必要がある」と積極的な回答をした教員の割合が80%以上。 ○「校内支援体制の整備や関係機関との連携強化できた」と肯定的な回答を100%にしていく。	・職員の特別支援教育に関するニーズを聞き取り、ニーズに見合う研修会を計画、実施する。 ・支援学級のグループ運営化や支援センターとの不登校対応に関する連携体制を整備し、全職員が共通理解のもとに困り感のある児童に関わることができるようにする。	A	・学校の実態や職員の特別支援教育に関するニーズに応じた研修を実施し、学びを深めることができたと回答した教員の割合は95%であった。 ・校内支援体制の整備と強化を進めているところである。支援学級の不登校傾向の児童の出席率が上昇し、大きく改善している。		・		・	特別支援CO（福島・大井）

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組 評価項目	重点取組 重点取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価 進捗度（評価）	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度（評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者
○ICTを活用した個に応じた学びの充実	○ICT活用による学びの保障と個に応じた教育活動の実践	○アンケート「タブレットPCを活用し、自分に合った方法で学習に取り組むことができる。」に肯定的な回答をした児童の割合85%上。	・日々の授業や家庭学習等でタブレットPCを使った調べ学習・情報の共有・習熟学習等の機会を作るとともに学び方を指導する。	A	前期は１年生を除く児童を対象とした調査において、アンケートに肯定的な回答をした児童の割合は87%で目標を達成した。後期は１年生も調査対象に含め、低学年の実態に応じた端末操作スキルの習得を目標とする。					知恵を研ぐ部（古川・富崎）
○チーム担任制による指導の充実	○チーム担任制を推進し、教職員間の連携と組織的な指導体制を確立することで、児童理解の深化と指導の質の向上を図る。	○児童アンケート 「困ったときに相談できる先生がいる」肯定的回答 80%以上 ○教員アンケート「チームで連携した指導ができている」肯定的回答 90%以上	・チームでの連携、組織的な対応による児童の安心感の確保 ・チームでの対応と教科担任制による授業改善	A	・児童アンケートで肯定的な回答をした児童は、「困ったとき、話を聞いてくれる先生がいるか」4年生97.4%、5年生90.5%、「先生はあなたのよいところを認めてくれているか」4年生98.7%5年生96.8%であった。 ・チーム担任に関わる教員アンケート「チームで連携した指導ができている」に肯定的な回答をした教員は、94.4%であった。					チーム担任（藤田・冨永）

●…県共通　○…学校独自　◎…志と誇りを高める教育

5　総合評価・次年度への展望

・
・
・